

日本介護事業連合会 発行「DailyReport」に

これからの高齢化社会において目指すべき姿について寄稿

ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長

日本介護事業連合会 副会長・理事

今野由梨

4年前、この介護事業連合会の最初の副会長に就任させて頂いたのには訳がある。

1969年、私が日本ではじめて前例のないニュービジネスを立ち上げ、ベンチャー第一号となって11年目。「赤ちゃん110番」「子ども110番」という当時はどこにもなかった電話を双方向ニューメディアに仕立てて、国の電話回線をパンクさせるほどの国民のニーズを掘り起こしやっとうこうした事業を定着させることができた。

さあ、そろそろ今度は高齢者の方々の為のサービスを！ 私はその想いを伝えるべく駆け巡った。その甲斐あって出会わせて頂いたのが松下幸之助氏。「世界一の高齢国日本に大切な仕事、頑張りなはれ！」と当時「熟年」をテーマに掲げられていた野村証券様をご紹介くださり「熟年110番」が誕生した。

やることなすことすべて前例がない、法律違反、規制違反、で各省庁からお叱りを受ける中、なんとか息絶えずにこの「奇跡の50周年」を迎えられたのは、こうした民間の巨星達のおかげである。松下幸之助、井深大、盛田昭夫、堤清二、豊田章一郎といった日本経済界の象徴とも言うべき方々。私の恩人というより、こうしたサービスのおかげで助けられた、救われたと喜んで下さったこの国の何百何千万人の方々にとっての大恩人である。

私が高齢社会の問題に取り組んで丁度40年。私も当時の44歳から今84歳に！

後期高齢者と言われて10年もたつ。一般的には60代で定年を迎え職場を去っているところなのに、私は更に20年たっても益々元気。

コロナが始まった後も休んだこともない。「ベンチャーの母」として「国境なきお母さん」として、コロナ禍で死にそうな沢山の企業を支えるため、休むひまも死んでるひまも無い！

制度と人々の実態とのこの大きすぎる乖離！ 日本古来からの固定的な年齢観を引きずってはならない。今も、中国その他の高齢者施設等に呼ばれたり、つい先日も中国から初めてのネット講演、しかも90分の生放送。いつもながらの原稿もないぶっつけ本番で。なぜこの厳しい時代に日本人の私が？ 彼らの最大の関心ごとは私の年齢にあるようだ。なぜ、いつもハイヒールで、ドタバタよその国まで駆け巡ってこの偉い自分たちに言いたい放題！ すさまじいスピードで高齢化する自分達の国にも、ぜひあのような高齢者を増やしたい！

年を重ね、自分達に蓄積した尊い経験、人脈、知恵、技術、そして人間愛を、これからの時代の為にこそ生かしたい。受けの立場から、何でも良い、与える立場、支え、助ける立場になって、最後の日々を生きたい。人間としての尊厳を日一杯実感して……！

そうした高齢者の方々の本音をしっかりと受け止められる介護事業にしたい。そこで働く方々、それを経営される方々にもっとやりがいと誇りを感じ、幸せになって頂きたい。そんな国を実現させるための日介連でありたい。心からそう願う日々である。

【一般社団法人介護事業連合会(日介連)】

介護事業者による連合組織として設立された団体

設立:2014年12月

代表理事・会長:愛知和男(元国務大臣)

連絡先:03-6755-8028

医療・介護・福祉の内容に特化した冊子

『Daily Report』を月に1回発行

今回今野がそちらに上記を寄稿しました。

冊子発行は6月下旬~7月初旬

日介連登録会員に向けて発送されます。

